

学術情報センター ニュース

学術情報ネットワークの拡張とこれに伴う 運用停止について

「学術情報ネットワーク」は、学術情報センターが整備するノードを介して全国の大学等の計算機センター、図書館等を接続したデジタル・ネットワーク（パケット交換網）です。学術情報ネットワークへの接続コンピュータ数は、平成元年10月現在で135に達しており、研究者等に対して学術情報の基盤的流通網として、ますます学術研究に占めるウェイトが大きなものになってきています。

昭和63年度までに、学術情報センターを中心とした17ノード機関相互間を接続する学術情報ネットワークが整備されました。

平成元年度は、さらに信州大学、金沢大学、愛媛大学、長崎大学、熊本大学の5大学にネットワーク通信機器（PMX，MUX等）を設置して、ネットワークの拡張を行い、平成2年1月5日から新構成で運用を開始します。これで、国内ノードは22機関になります（別図参照）。また、既設ノードの一部についても、接続需要、学内LAN等に対応するため、ネットワーク機能の整備強化を行います。

学術情報ネットワークをご利用のユーザの方には、別途ご連絡致しましたが、このような新規ノードの設置、ノード機能の拡張ならびに網構成の変更等に伴い、下記期間中は学術情報ネットワークの運用を停止いたしました。今後もネットワークの整備又は保守のために、同様な措置をとらせていただくことがありますので、ご了承くださいと思います。なお、学術情報センターの情報検索サービス（NACSIS-IR）及び目録・所在情報サービス（NACSIS-CAT）の利用については、学術情報ネットワークを介さずに利用することが可能です（例：DDXあるいは電話網によって）。また、個々の大学等の計算機センター等のサービスの利用については、当該センター等にご照会下さい。

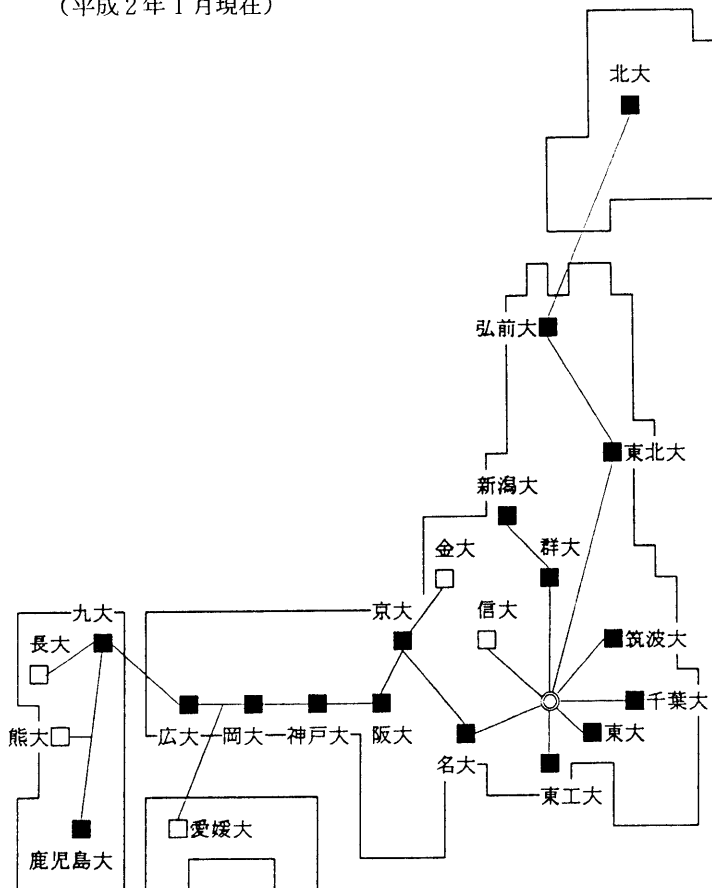
（ネットワーク係）

学術情報ネットワーク運用停止期間

区 分	平成元年12月			平成2年1月		
	22日(金)	23日(土)	…………	…………	4日(木)	5日(金)
群馬, 新潟, 鹿児島 のノード	←午前8時30分から					午前8時 30分から 運用開始
その他のノード		←午前8時30分から				

学術情報ネットワーク構成図

(平成2年1月現在)



凡例) ○ : 学術情報センター

■ : 昭和61～63年度設置大学 (17大学)

□ : 平成元年度設置大学(2年1月運用開始予定)(5大学)

平成元年度国際接続の整備について

1. はじめに

学術情報センターは、国際接続の2年次として、英国図書館(British Library: BL)にヨーロッパ向けの通信拠点を設置するなど、国際ネットワークの構築を実施している。この目的とするところは、学術情報ネットワークの整備の一環として学術情報の国際的な流通に資するため、その通信基盤を提供するものである。この国際ネットワークを通じて学術情報センターが作成した各種データベースをオンラインで海外の研究者にも提供していくとともに、海外の研究者との情報交換を可能にする国際電子メールサービスを実施することである。

2. 整備内容

国際接続は、海外の機関にネットワーク機器を設置した海外ノードを設け、学術情報センターと国際専用回線で接続するものである。初年度として昭和63年度米国科学財団(National Science Foundation: NSF)に海外ノードを設置し、データベース検索サービスの提供と国際電子メールネットワーク CSNETとの接続を行った。

平成元年度は、2年次として平成2年2月、英国図書館に海外ノードを設置し、データベース検索サービスを提供する計画で準備を進めている。更に、米国議会図書館(Library of Congress: LC)にデータベース検索サービスを提供するため及びジョージワシントン大学で国際電子メールネットワーク BITNETと接続するため NSFとの間に市内回線を設置した。

3. 国際接続におけるサービス

(1) データベース検索サービス

NSF, LC, BLに設置した日本語端末から海外の研究者に提供するデータベースは、学術情報センターが独自に作成した次の9種のものである。

- ① 科学研究費補助金研究成果概要データベース …… 日本語・英語
- ② 学位論文索引データベース …………… 日本語
- ③ 学会発表データベース第一系 …………… 日本語・英語
- ④ 学会発表データベース第二系 …………… 日本語・英語
- ⑤ 目録所在情報データベース (和図書)…………… 日本語
- ⑥ 目録所在情報データベース (洋図書)…………… 英語・その他
- ⑦ 目録所在情報データベース (和雑誌)…………… 日本語
- ⑧ 目録所在情報データベース (洋雑誌)…………… 英語・その他
- ⑨ データベースディレクトリ …………… 日本語

また、利用可能時間帯は、日本時間で以下のとおりである。

月曜日～金曜日：午前9時 ～ 翌日午前2時

土曜日：午前9時 ～ 午後6時

(2) 国際電子メールサービス

国際的な研究者間の情報交換を促進するため、昭和63年度、東京大学大型計算機センターの協力のもとに、CSNETと接続し、平成元年4月から試行サービスを行っている。

平成元年度は、ジョージワシントン大学を介して BITNETと接続し、平成2年1月から試行サービスを開始する予定である。BITNETの利用については、別掲載の「NACSIS-MAILと国際ネットワーク BITNETとの電子メール交換について」をご一読ください。
(ネットワーク係)

NACSIS-MAILと国際ネットワーク BITNETとの電子メール交換について

1. はじめに

学術情報センターの電子メールシステム（以下 NACSIS-MAIL）は、ACOS 1000 上に CITT 勧告 X.400 で規定された MHS (Message Handling System) に基づいて開発しサービスしており、現在約 3,000 人が利用している。更に、大型計算機センターにも、この方式の電子メールシステムが導入されることになっており、全国規模の電子メールネットワークに発展しつつある。

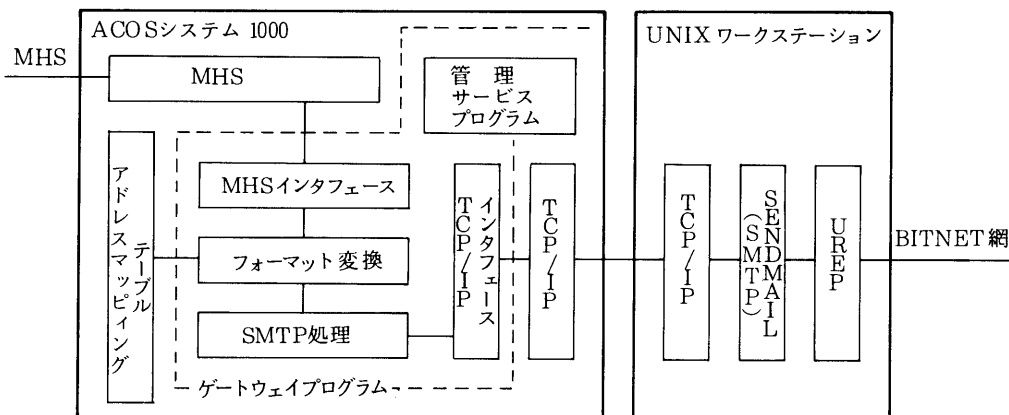
一方、世界的に普及している国際ネットワーク BITNET や CSNET は MHS 方式でないため、学術情報センターは、NACSIS-MAIL との間で電子メール交換を可能とするゲートウェイシステムを開発し、現在接続試験を行っている。BITNET については、平成2年1月から試行サービスを開始できるはこびとなったので、ゲートウェイシステムの紹介と電子メール交換の方法について説明する。なお、CSNET についても準備を進めているので追ってサービスする予定である。

2. ゲートウェイシステムの構成

ゲートウェイシステムの汎用性を高めるとともに、システム開発量等を最少にするため、UNIX のネットワーク環境を利用したシステム構成とした。基本的な考え方は、以下のとおりである。

- ① NACSIS-MAIL のホストである ACOS 1000 のフロントエンドプロセッサとして UNIX ワークステーション Sun 4 を使用する。
- ② ACOS 1000 と Sun 4 とは、ISO 8802/3 (ethernet) で接続する。
- ③ ACOS 1000 と Sun 4 間のメッセージ交換プロトコルとして SMTP (Simple Mail-Transfer Protocol : DARPA Internet Protocol) を使用する (下位手順は TCP/IP)。
- ④ BITNET との接続のためにペンシルベニア大で開発されたメール交換エミュレータ UREP (UNIX RSCS Emulation Program) を使用し、BITNET のメールを SMTP のメールに変換する。

- ⑤ ACOS 1000上では、SMTPのメールフォーマット RFC#822を MHSのX.400のメールフォーマットに変換する。



国際電子メールのゲートウェイシステム構成図

3. 電子メールの宛先に関するユーザインタフェース

NACSIS-MAIL など MHS 方式のメールシステムでは、宛先をOR名「組織名 / 部局名 / 個人名」の形式で指定する。一方、BITNETでは、「利用者 id@ノード名」の形式で指定する必要がある。本ゲートウェイシステムでは、宛先形式の変換を次の2つの考え方で行うこととした。

- ① 国際メールの送信は、次のOR名のゲートウェイメーラが行うので、利用者は、MHS方式のメールシステムからこのOR名宛にメールを送信する。

ゲートウェイメーラの OR名
 英名 NACIS /CREN /MAILER
 和名 学術情報センター /CREN /MAILER

実際の BITNET の宛先はメール本文の先頭に次の形式で指定する。

TO: userid@nodeid.bitnet

- ② BITNET側からみた ACOS 1000 のメールアドレスは、次の形式である。

利用者番号% simail@jpnac.bitnet

又は、利用者番号@jpnac.bitnet

受信した国際メールの宛先は、アドレスマッピングテーブルに従ってOR名に変換される。

アドレスマッピングテーブル

	項 目	例
1	利用 者 番 号	A 00001
2	OR 名 (和名)	学術情報センター / システム管理課 / 山田
3	OR 名 (英名)	NACSIS / SYSTEM / YAMADA

なお、利用者番号の取得とアドレスマッピングテーブルへのOR名等の登録は、国際メールの利用申請を行うことによって可能である。

4. BITNETへのメール送信例

NACSIS-MAILの利用者（利用者番号：A 00001, OR名：A 大学 / A 学科 / A）の人がBITNETの利用者（メールアドレス：x@x-node）の人にメールを送付する場合は以下のように行う。

- ① メール宛先は、次のゲートウェイメーラ宛とする。
NACSIS/CREN/MAILER
- ② 本来のBITNETの宛先は、メール本文の先頭に次のような形式で記述する。
TO: x@x-node.bitnet

次に実際のA大学の利用者のオペレーションを例として記述する。
（下線部が入力）

```
SYSTEM ? SIMAIL
*** MHS START ***
MHS 001 R コマンド S[END], R[END], SC[AN] OR DONE ? SEND
MHS 004 R 送り先 ? NACSIS/CREN/MAILER
MHS 004 R 送り先 ? (改行)
MHS 005 R 主題 ? subject
MHS 006 R メール テキスト ? (改行)
*TO: x@x-node.bitnet
*text
*text
*(改行)
MHS 007 R オプション ? (改行)
MHS 116 I メールを受付ました
MHS 112 I IPメッセージ識別子: IPiiiiiiiiiii 発信時刻 hh:mm:ss
```

以上のメールはX大学の利用者に以下のように届けられる。

```
Date: dd mon yy hh:mm:ss: + 0900
From: a 00001 %simail@jpnac.bitnet
Subject: subject
To: x@x-node.bitnet
text
text
```

メール本文先頭の宛先は、ヘッダに移動されボディからは削除される。

5. BITNETからのメール受信例

BITNETの利用者（メールアドレス：x@x-node.bitnet）から、NACSIS-MAILの利用者（利用者番号：A00001，OR名：A大学/A学科/A）に次のようなメールが送付されたとする。

```
Date : dd mon yy hhmm PDT
From : x@x-node. bitnet
Subject : subject
To : a00001%simail@jpnac. bitnet
text
text
```

受信メールは、標準のオペレーションで参照できる。（下線部が入力）

```
SYSTEM ? SIMAIL
MHS001 R コマンド S[END], R[EAD], SC[AN] OR DONE ? READ
MHS002 R メールタイプ S[END], R[ECEIVE] OR D[ELIVERY] ? RECEIVE
MHS101 I 全メッセージ数 : 1
MHS102 I 検索 ID: ID 0001
MHS108 I IPメッセージ識別子 : IP iiii iiii iiii
MHS104 I 発信者 : NACSIS /CREN /MAILER
MHS105 I 主題 : subject
MHS003 R 処置 D[ISPLAY], E[RASE] OR DONE ? DISPLAY
      *** MAIL ***
MHS102 I 検索 ID: ID 0001      メッセージ長 : 100
<オプション>
      発信時刻 : yy /mm /dd hh : mm : ss
      発信者 : NACSIS /CREN /MAILER
      主題 : subject
      正 /写し受信者 : 正受信者
<メッセージ> ISO 646
Date : dd mon yy hhmm PDT
From : x@x-node. bitnet
Subject : s ubject
To : a00001%simail@jpnac. bitnet
text
text
```

ゲートウェイメーラは、受信メッセージ全て（ヘディング，ボディ）をNACSIS-MAILのボディとする。
（ネットワーク係）

電子メールシステムの機能強化について

電子メールシステムを利用しやすくするために、以下の機能強化を行い、10月2日から10月9日にかけて提供を開始しました。

(1) 電子メールサービス

① ログオン時のメール着信メッセージの表示機能

利用者のメールボックスに保存されているメッセージ件数及び未参照件数を利用者がシステムに接続した時に表示する機能を追加しました。

表示例

YOU HAVE 1 SEND MAIL	i
YOU HAVE 2 RECEIVE MAIL (1 NEW)	ii
YOU HAVE 3 REPORT (1 NEW)	iii

メッセージの意味

- i : 利用者自身が送信したメールのメッセージが1件メールボックスに保存されている。
- ii : 利用者宛に送られた受信メールのメッセージが2件メールボックスに保存されている。そのうち、1件が未参照のメールである。
- iii : 利用者が送信したメールのレポートが3件メールボックスに保存されている。そのうち、1件が未参照のレポートである。
- ・ メールボックスにメッセージが保存されていない場合には、いずれのメッセージも表示されません。
- ・ メールボックスの中のメッセージは利用者が消去するまで、保存されています。自動的に消去されることはありません。

② 受信メールに対する返信機能

利用者Aが利用者Bからメールを受取った場合、受信者Aは、発信してきたB宛にメールの返事を送る時、送信先を簡易に設定できる機能(REPLYコマンド)を追加しました。これによって、受信メール処理中でも、一時的に送信処理が利用でき、メール送り先として受信メールの送信者が自動的に設定されます。送信処理が終了した時点で先の受信メールの処理に戻ります。

(2) 電子掲示板サービス

① コマンド名称の一部変更

コマンド名やパラメータの省略文字をわかりやすくするために、次のとおり変更しました。

<変更したコマンド名>

機能 (動作)	変更後 (現在)	変更前 (従来)
指定の掲示板に移行する	G[O]	B[OARD]
1つ上位の掲示板に戻る	B[ACK]	RET[URN]
最上位の掲示板に戻る	T[OP]	Q[UIT]
メッセージ内容を変更する	C[HANGE]	REP[LACE]

② パラメータの省略形の追加

機 能	省略形	標準形
利用者番号指定	U =	UID =
日付指定	D =	DATE =
主題文字列指定	T =	TITLE =
書き込み順表示 (既定値)	A	AFTER
最新順表示	B	BEFORE

(注) 既定値：予め設定してあるモードのこと。

③ 処理対象掲示板名称の表示

コマンド入力のプロンプト表示時に、現在位置付けされている掲示板の名称を表示するようにしました。これにより、掲示板を移動させた時に、処理対象となっている掲示板の名称が明確になります。

④ 掲示メッセージ表示時のメッセージ番号の表示

メッセージを表示した時に、各々のメッセージにメッセージ番号を付加しました。これにより、メッセージを連続表示させた場合に表示しているメッセージのメッセージ番号が明確になります。

⑤ メッセージ一覧 (LIST) コマンドへのパラメータの追加

メッセージ一覧に最新順表示のパラメータ (BEFORE) を追加しました。(上記②参照)

(3) ディレクトリサービス

① 検索結果の表示タイプ変更

メール登録者の検索に当たって、利用者番号を検索条件にした時に、登録者情報に英語名および日本語名が登録されていた場合には、使用している端末タイプを優先するように変更しました。従来は英語名を優先して表示していました。

(ネットワーク係)

学術雑誌総合目録和文編の改訂について

1. はじめに

学術情報センターでは、本年3月の学術雑誌総合目録欧文編の冊子体の刊行に引続き、4月より同和文編の改訂作業に着手しました。9月末には、全国調査の資料である「データ記入要領」、変遷マップ等を完成し、10月中にこの調査に参加する全国約700機関、1000カ所にこれらを発送しました。データ記入説明会は、11月7日から17日までの期間に、全国6ヶ所(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡)で開催し、535機関、929名という多くの参加者を得て、滞りなく終えることができました。これもひとえに会場館となった各図書館の皆様方の御協力、ならびに多忙な日常業務にもかかわらず学術雑誌総合目録事業の意義に賛同され、御参加くださった図書館(室)の皆様の協力の賜とあらためて謝意

を表するものです。

今回の全国調査の目的としては、①先の全国調査以来6年を経過した和文編データベースの内容を最新のものとすること、②オンラインによる総合目録データベースの形成と、データシートによる調査方式との融合によるデータベースの更新方式を確立すること、③改訂期間の短縮化を図ること、等をあげることができます。とりわけ、②のオンラインによる総合目録データベースの形成は、今回の全国調査ではじめて導入されたものであり、今回の大きな特徴と言えるものです。また、収録範囲の拡大を図ることにより、これまでの雑誌の目録から逐次刊行物の目録をめざしていることも特徴の一つです。他方、報告作業の軽減化を図るために所蔵データの更新方法に各機関別の前回の所蔵報告リストを直接修正するという方法を採用し、くわえて今まで以上に詳細な「記入要項」の作成、ならびに予備版の充実に心掛けた次第です。

2. 編集方針

上記のような目的のために、以下の編集方針に従って作業をすすめます。

(1) 収録範囲

- ・国内の大学、研究機関等において研究資料として扱われる和文の逐次刊行物とします。
- ・いわゆる雑誌のほか、年鑑、年報、白書、統計も収録対象に含めます。
- ・新聞、およびきわめて短期間の利用を目的とした資料は対象としません。

(2) 収録誌数

約 60,000 タイトル

(3) 調査時点

平成元年（1989年）11月1日現在

(4) 調査予定機関

- ① 国・公・私立大学図書館
- ② 大学共同利用機関
- ③ 調査専門図書館（都道府県立図書館を含む）

3. 日 程

予備版、データシート等調査資料送付	平成元年10月
全国調査開始	平成元年11月1日
データ記入説明会	平成元年11月中
全国調査データ提出締め切り	平成2年4月27日
磁気テープのロード	平成2年5月～平成2年7月
データ編集	平成2年5月～平成3年3月
確認調査	平成3年4月～平成3年6月
冊子体編集	平成3年7月～平成4年2月
「学術雑誌総合目録和文編」刊行	平成4年3月

4. 作業内容

以下の5つの作業があります。

(1) 所蔵更新作業

所蔵更新リスト中の逐次刊行物の増加分の所蔵データの報告、および報告済み所蔵データの修正

(2) 所蔵追加作業

その参加組織が新規に受け入れた予備版収録誌の所蔵データの報告

(3) 書誌・所蔵追加作業

予備版未収録誌の書誌データと、その所蔵データ報告

(4) 書誌修正作業

予備版収録誌の書誌データの修正・補完（ただし、変遷関係については変遷報告作業で行います）

(5) 変遷報告作業

変遷関係に関する事実発見の報告（新たな変遷関係の追加、および報告済み変遷関係の修正・削除）

5. 調査方法

データの提出に際しては、学術情報センターにオンラインで接続している館とそうでない館とではその方法が異なります。

オンライン接続館はオンライン入力、未接続館はデータシート提出という方法を原則とします。ただし、オンライン接続館であっても、事情によりオンライン入力が適当でない場合は、データシート提出による方法をとることが可能です。

作業内容	オンライン接続館	未 接 続 館
(1) 所蔵更新	オンライン入力 あるいは磁気テープ*	所蔵更新リスト修正 あるいは磁気テープ*
(2) 所蔵追加	オンライン入力 あるいは磁気テープ*	所蔵追加用データシート あるいは磁気テープ*
(3) 書誌・所蔵追加	オンライン入力	書誌・所蔵追加用データシート
(4) 書誌修正	オンライン入力	書誌修正用データシート
(5) 変遷報告	変遷注記用データシート	変遷注記用データシート

* オンライン接続館の場合も未接続館の場合も、磁気テープによる所蔵データの提出が可能です。更新作業を迅速確実に行うため、本番用磁気テープのデータロードの前に事前チェックを行う必要があります。このため、所蔵データを磁気テープで提出する参加館は、事前にサンプル・テープを当センターの雑誌目録情報係宛にお送りください。このようにオンライン接続館の場合、所蔵データの提出方法は、オンライン入力、磁気テープ、およびデータシート（あるいは所蔵更新リスト）の3通りが可能です。提出されたデータがデータベースに反映されるのは、それぞれ以下の時期となります。

オンライン入力 …………… 平成元年11月1日～平成2年4月27日

磁気テープ …………… 平成2年5月～7月

データシート（所蔵更新リスト）…… 平成2年5月～平成3年3月

したがって、同一所蔵データを2通り以上の方法で提出した場合、データシート、磁気テープ、オンライン入力の優先順位で登録されることになりますので、御注意ください。（雑誌目録情報係）

情報検索サービスの拡充について

現在、23種のデータベースメニューについて情報検索サービスを実施していますが、その他、本年度中に、新たに次のデータベースについてサービスを開始することとしていますので、その旨ご案内します。

データベース名称	概要	主なデータ項目	当初予定データ件数
研究者ディレクトリ (仮称)	文部省による「学術研究活動に関する調査」(昭和63年5月)に基づき、大学等の研究者の氏名、所属、研究課題、発表論文等研究者に係る情報を収録したもので、日本語及び英語からなる。	氏名、生年月日、所属、職名、専門分野、出身大学、学位、所属学会、研究課題、発表論文・著書等	約13万6千件
現行法令データベース (仮称)	総務庁作成による現行法令(憲法、法律、政令、勅令)の全文及び参照関係を収録したものの。	法令名、公布年月日、法令見出し、本文、付則、別表、引用法令	全法令 約3千5百件

なお、各データベースのサービス開始時期については、NACSIS-IRのオンラインニュースをご覧ください。

また、平成2年度中には、電子学術論文データベース、研究プロジェクトデータベース、学会発表予稿集電子ファイルデータベースの3件のデータベース及びCOMPENDEXとEIMを統合したCOMPENDEX PLUSデータベースを新規にサービスを開始する計画にしております。
(データベース課)

データベースディレクトリのデータ更新について

先に実施した「学術情報データベース実態調査」結果に基づき、データベースディレクトリの更新を行い、12月1日からサービスを開始しましたので、お知らせします。今回の更新データは、本年9月末現在のものとなっておりますので、ご活用下さい。

なお、本年度は、昨年度と比べ、上記調査実施時期を、早めたことから、約4カ月早くデータの更新を行うこととなったところです。

(企画係)

大学等の研究者等が作成するデータベース の学術情報センターへの受入について

本年9月現在で、大小あわせて約1,000種のデータベースが我が国の大学等の研究者等により作成され、そのうちの約4割が情報検索サービス等により公開されていますが、残りの6割は、何らかの方法での公開が望まれているところです。

そこで、本センターでは、これらのデータベースの有効利用を促進し、もって学術研究の進展を図るため、作成者から受け入れ、情報検索サービスを実施していくこととして、本年9月から、「大学等作成データベース受入に係る検討会議」を設置し、検討を開始したところです。この会議は、データベースの作成者、利用者、情報分野の研究者等の学識経験者により構成されており、本年度中を目的として、受け入れのための基本方針について検討を重ねているところです。

(企画係)

英文データベース利用者マニュアルの作成について

現在、情報検索サービスを実施しているデータベースについては、それぞれデータベースごとに日本語版の利用者マニュアルを作成し、無料で配付しているところですが、アメリカ、イギリスと学術情報ネットワークの国際接続を進める中で、外国人にもサービスが容易に利用できるよう英語版の利用者マニュアルを作成することとしております。

当面は、サービスメニューのうち当センター自身の作成に係るデータベースについて順次作成することとしており、平成2年初めには、次の5種について刊行することを予定していますので、ご利用ください。

- (1) Grant-in-Aid Scientific Research (仮称)
(科学研究費補助金研究成果概要データベース)
- (2) Disseartation Index (仮称) (学位論文索引データベース)
- (3) Academic Conference Papers (仮称) (学会発表データベース)
- (4) Union Catalog of Serials (仮称) (目録所在情報データベース (雑誌))
- (5) Database Directory (仮称) (データベースディレクトリ) (データベース課)

第2回日本情報国際会議について

学術情報センター教授

根 岸 正 光

第2回日本情報国際会議 (2nd International Conference on Japanese Information in Science, Technology and Commerce) は、ドイツ国立情報処理研究所 (GMD) の主催により (共催: ベルリン日独センター, プロシャ文化財図書館, 後援: 英

国図書館、ドイツ研究技術省、ベルリン市、(財)データベース振興センター、カールスルーエ専門情報センター、日本科学技術情報センター、米国技術情報サービス局 (NTIS) および学術情報センター)、1989年10月23日から25日の間、西ベルリン日独センターにおいて、195名の参加者を得て開催された。この国際会議は、1987年に英国ウォーリック大学において、英国図書館の主催により開催された会議を引き継いで、その第2回としたものである。会場となったベルリン日独センターは、第2次大戦での破壊を昨年ようやく修復した旧日本大使館で、日独同盟時代の豪勢な建物である。

学術情報センターは第1回に同じく、今回もこの会議を後援し、猪瀬所長、安達助教授、大山助教授および根岸が出席した。会議は、動向と政策、情報源、分析と流通、言語と漢字処理、直接的接触などのテーマの40件程の報告と討論で構成され、本センターについては、猪瀬所長が開会の祝辞をのべ、また根岸が学術論文数の国際比較調査の結果と、これに関連する学術情報センターの国際的対応について報告した。また、センターの国際的広報活動の一環として、会議に併設される展示会にも参加し、情報検索サービスNACSIS-IRと目録所在情報サービスNACSIS-CATのオンライン・デモンストレーションを実施した。これには、本年度に予定される英国図書館との国際接続に対する事前広報の意味もあり、実際にデータベースを検索しながら、日本の学術情報に関心のある欧州の人々からの質疑に答えることができた。

600頁近い予稿集が、電子出版方式で作成され、事前に出席者あて送付されてくるなど、主催者側の熱意が感じられる会議であったが、報告・討論においても、具体的に日本の情報を提供し、また利用した上での議論が多く行われた。日本情報についても、どうやら実需の裏付けを伴った議論が可能な段階に立ち到ったとみることができよう。なお、予稿集は近々オランダ IOS社から単行書として出版される予定である。次回の会合は、フランス学術研究センター (CNRS) からの代表の提案により、ロレーヌ地方ナンシー市で1991年に開催されることになった。CNRSは現在ナンシーに移転中であるので、その新施設を用いた企画になるはずである。

接 続 ニ ュ ー ス

前号以降、新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は、以下の通りです。
(平成元年11月30日現在)

No.	機 関 名	接 続 日	No.	機 関 名	接 続 日
99	核融合科学研究所	元. 9. 22	104	札幌大学	元. 10. 26
100	帝京技術科学大学	元. 9. 26	105	青山学院大学	元. 11. 1
101	日本大学	元. 10. 2	106	学習院大学	元. 11. 10
102	立命館大学	元. 10. 18	107	明治学院大学	元. 11. 10
103	奈良大学	元. 10. 23			

この結果、参加機関数は、国立大学 73、公立大学 2、私立大学 27、共同利用機関 5、合計 107となりました。
(共同利用係)

東アジア書誌調整研究

学術情報センター教授

内 藤 衛 亮

学術情報センターでは、日本における国際書誌調整の現状分析と1990年代の展望を求めて、学術情報センター共同研究と国際共同研究(科研費国際学術研究)の二方面から検討をすすめている。二つの研究活動はいずれも山田尚勇研究開発部長を代表者とし、センター外部から研究協力者の参加を仰いでいる。これは1987年12月に開催した「学術情報ネットワーク国際会議」、さかのぼれば1986年8月のIFLAプレコンファレンスセミナーで提起された東アジアにおける書誌調整のための課題の解決と実現可能性を追求するものである。

その背景にある現状認識は次の通りである。すなわち、国際的書誌調整の推進をめざして国際図書館連盟(IFLA)は国際的な目録原則の確立(パリ原則)、国際標準書誌記述(ISBD)、書誌情報交換用データベース仕様(UNIMARC)などの制定と世界的普及を推進しているが、これらの動向には東アジア地域をはじめとする多文字多言語環境への配慮に不足することがあり、そのために最近の提案は高度化しつつあるにも関わらず、日本のみならず東アジアにおいて適用する際には困難な要素を含んでいる。最近にいたり、ISOやIFLAなどは漢字コードをはじめアジア地域の書誌調整課題に大きな関心を寄せており、これらの動きに呼応するかのごとくに中国、韓国その他アジア地域における活動も活発化しており、各国の関係者による情報・意見交換は緊急の課題となっている。

学術情報センター共同研究は「日本における国際書誌調整および実行可能性の調査分析」と題して、主に公開講演会の開催を通じて、首都圏の関係者を中心に関心事のありかの把握につとめている。第一段階として「韓国語・朝鮮語資料と文字処理」をテーマとしており、第二段階では「中国語資料」、「漢籍」などを予定している。また、並行してIFLA対応の調査分析をすすめる計画である。幸い、韓国目録規則翻訳にかかわる提案や韓国語・朝鮮語資料に関する総合目録についての提案などが寄せられている。

国際共同研究は3年計画であり、「東アジア文字データの国際交換に関する実証研究」(Feasibility Study on International Exchange of East Asian Databases)と題して、漢字をはじめとする東アジア文字によって記録された全国書誌や総合目録、抄録・索引あるいは全文などのデータベースの相互利用を、まずアジア地域、そして欧米その他の地域とのあいだで実現するための実現可能性調査を進める。具体的には研究者交流を主たる活動内容とし、1989年度には韓国中央国立図書館館長はじめ5名を招待し、同館電算化計画と現状、KOR-MARCの現状と将来計画などについて情報、意見を交換する計画である。館長は12月半ばに、若手職員は2月に招待し来日の運びである。1990年度には韓国のはかに中国からも招待する予定である。また、当方からは宮澤彰助教授を12月初めから約60日間、韓国学術振興財団(ソウル)に派遣し、韓国における研究電算網の構想と開発の現状、大学・研究機関におけるデータベースの作成・利用における問題点、わが国学術情報システムと共通する課題などを調査分析する。

NACSIS-IRシステム・データベース収納状況

平成元年11月30日現在

No.	データベース名	収納件数	収録期間
1	Life Sciences Collection	758,731	1982年1月～最新版
2	Math Sci	639,148	1973年1月～最新版
3	COMPENDEX	1,523,385	1976年1月～最新版
4	Ei Engineering Meeting	468,322	1984年1月～最新版
5	Harvard Business Review	2,384	1927年1月～最新版
6	ISTP & B	1,288,766	1982年1月～最新版
7	EMBASE	985,166	1986年4月～最新版
8	Sci Search	1,867,621	1987年4月～最新版
9	Social Sci Search	322,313	1987年4月～最新版
10	A & H Search	297,617	1987年4月～最新版
11	科学研究費補助金 研究成果概要データベース	25,394	昭和60年度～最新版
12	学位論文索引データベース	38,619	昭和59年度～最新版
13	学会発表データベース第一系 (電気・情報・制御関連)	18,645	昭和62年度～最新版
14	学会発表データベース第二系 (化学関連)	3,179	昭和63年度～最新版
15	化学全文データベース	2,435	1983年～最新版
16	JPMARC	915,667	1969年1月～最新版
17	LCMARC (Books)	2,635,531	1968年1月～最新版
18	LCMARC (Serials)	459,385	1973年1月～最新版
19	目録所在情報データベース (和図書)	315,282 誌 1,203,198 件	1986年度～最新版
20	目録所在情報データベース (洋図書)	650,723 誌 1,107,247 件	1986年度～最新版
21	目録所在情報データベース (和雑誌)	47,654 誌 1,031,427 件	最新版
22	目録所在情報データベース (洋雑誌)	103,246 誌 854,524 件	最新版
23	データベース・ディレクトリ	905	1989年3月現在 (最新版)

(システム業務係)

NACSIS-CATシステム・データベース構築状況

平成元年11月30日現在

デ ー タ ベ ース 名			収 納 件 数	備 考 (収 録 期 間 等)
総 合 目 録 デ ー タ ベ ー ス	和図書	書 誌	315,950	
		所 蔵	1,208,182	
	洋図書	書 誌	356,188	
		書 誌 (遡及)	295,315	
		所 蔵	1,109,689	
	和雑誌	書 誌	48,699	
		所 蔵	1,034,611	
	洋雑誌	書 誌	103,615	
		所 蔵	858,871	
	著者名典拠		320,845	
	統一書名典拠		640	
	和雑誌変遷マップ		5,853	
	洋雑誌変遷マップ		12,825	
参 照 フ ァ イ ル	LC/MARC	洋図書書誌	3,143,693	1968年1月～1989年11月
		洋雑誌書誌	454,106	1973年1月～1989年11月
		洋書著者名典拠	2,076,525	1977年1月～1989年11月
		洋書統一書名典拠	11,534	1977年1月～1989年11月
	JP/MARC	和図書書誌	916,782	1969年1月～1989年11月
		和書統一書名典拠	26,288	
	UK/MARC	洋図書書誌	1,097,054	1950年1月～1989年11月
	TRC/MARC	和図書書誌	184,731	1985年4月～1989年11月
	GPO/MARC	洋図書書誌	256,665	1976年1月～1989年4月

(システム業務係)

第9回学術情報センター運営協議員会

学術情報センター運営協議員会が12月6日(水)10時から本センターにおいて開催された。
なお、議題は次のとおりである。

1. 学術情報センター組織・機構について
2. 規則の改正について
3. 教官の人事について
4. 平成元年度委員会活動報告について
5. 平成元年度事業状況報告(中間報告)について

ネットワーク委員会

平成元年度第1回ネットワーク委員会が平成元年8月22日(火)に開催された。

委員長として当センターの浅野正一郎教授を選出した後、報告事項として、①平成元年度学術情報ネットワーク国内整備状況について、②平成元年度学術情報ネットワーク国際整備状況について、③学術審議会「学術情報システムの整備に関する当面の課題について」(中間報告)について、④文部省文教施設部「大学施設の情報化に関する調査研究 ― 情報化の基本的考え方(概要)」についての各事項について報告した。

次に、協議事項として、(1)平成元年度ネットワーク小委員会の設置、検討課題、構成について協議し、承認された。

総合目録委員会

平成元年度第1回総合目録委員会(委員長:井上如学術情報センター研究主幹)が平成元年9月14日開催された。まず、センター側より、①目録所在情報サービス運用状況について、②平成元年度システム機能強化事項について、③図書目録所在情報データベースの情報検索サービス開始について、④学術雑誌総合目録編集事業について、⑤教育・研修事業について、⑥データベースの品質管理状況について、⑦その他、の7項目の報告があった。

次いで、審議事項に移り、①学術雑誌総合目録と文編新版全国調査実施計画について、②和図書目録における統一書名典拠の採用について、③「目録情報の基準」の整備について、の3点について審議がなされた。審議の結果、①については収録対象範囲(年鑑・統計類を含む)、調査期日(平成元年11月1日)、日程(平成4年3月冊子体刊行予定)等実施計画原案通り承認された。②については、前年度に小委員会に付託された事項であり、適用する標目表を日本目録規則1987年版に記載されている統一書名とするという小委員会の検討結果について報告があり、報告通り承認された。③については、用語の統一、入力レベルの変更等の「目録情報の基準」の整備の必要性について説明があった後、小委員会に詳細の審議を付託することとなった。なお、③の審議事項に関連し、今年度についても、小委員会を設置することが承認された。

課金委員会

平成元年度第2回課金委員会(委員長:濱田喬学術情報センター研究主幹)が、平成元年11月20日(月)に開催された。

まず、報告事項として①学術情報センターサービスの利用者の登録状況について、②情報検索サービスの利用統計について、③平成元年度国際接続の整備について、④CD-ROM版学術雑誌総合目録の発刊について、⑤第2回日本情報国際会議についての報告があった。

次いで、今年度中にサービスを開始するデータベース(研究者情報データベース、法令データベース)の利用料金について協議し、現行の二次情報データベースと同様の料金(接続料50円/分、ヒット料13円/件)とすることが決定された。

学術情報センター電話番号

* 学術情報センターは10月 1日以降 ファックス(03) 814-4931 (管 理 部)
 ダイヤルインとなりました。 ファックス(03) 942-9398 (事 業 部)
 電話番号は下表のとおりです。 ファックス(03) 942-2919 (研究開発部)

所 長	(03) 942-6901	データベース課課長補佐	(03) 942-6972
所 長 秘 書 室	(03) 942-6901	企 画 係	(03) 942-6973
管 理 部 長	(03) 942-6903	"	(03) 942-6974
総 務 課 長	(03) 942-6911	文 献 デ ー タ ベ ー ス 係	(03) 942-6975
庶 務 係	(03) 942-6913	"	(03) 942-6976
"	(03) 942-6914	数値画像データベース係	(03) 942-6977
人 事 係	(03) 942-6915	"	(03) 942-6978
国 際 交 流 係	(03) 942-6917	目 録 情 報 課 長	(03) 942-6981
会 計 課 長	(03) 942-6921	図 書 目 録 情 報 係	(03) 942-6983
会 計 課 課 長 補 佐	(03) 942-6922	"	(03) 942-6984
総 務 係	(03) 942-6923	雑 誌 目 録 情 報 係	(03) 942-6985
"	(03) 942-6924	"	(03) 942-6986
経 理 係	(03) 942-6925	研 究 開 発 部 秘 書 室	(03) 942-6956
"	(03) 942-6926	"	(03) 942-6957
用 度 係	(03) 942-6927	山 田 研 究 開 発 部 長 室	(03) 942-6904
"	(03) 942-6928	井 上 研 究 主 幹 室	(03) 942-6954
施 設 ・ 管 財 係	(03) 942-6929	浜 田 研 究 主 幹 室	(03) 942-6952
共 同 利 用 課 長	(03) 942-6931	内 藤 教 授 室	(03) 942-6958
共 同 利 用 係	(03) 942-6933	根 岸 教 授 室	(03) 942-6953
"	(03) 942-6934	浅 野 教 授 室	(03) 942-6951
研 修 係	(03) 942-6935	宮 澤 助 教 授 室	(03) 942-6955
"	(03) 942-6936	大 山 助 教 授 室	(03) 942-6950
情 報 ・ 資 料 係	(03) 942-6937	小 山 助 教 授 室	(03) 942-6961
"	(03) 942-6938	安 達 助 教 授 室	(03) 942-6959
事 業 部 長	(03) 942-6905	橋 爪 助 教 授 室	(03) 942-6960
シ ス テ ム 管 理 課 長	(03) 942-6941	飯 田 助 教 授 室	(03) 942-6962
システム管理課課長補佐	(03) 942-6942	桂 助 手 室	(03) 942-6969
シ ス テ ム 管 理 係	(03) 942-6943	原 助 手 室	(03) 942-6966
"	(03) 942-6944	影 浦 助 手 室	(03) 942-6968
シ ス テ ム 業 務 係	(03) 942-6945	高 須 助 手 室	(03) 942-6967
"	(03) 942-6946	山 田 研 究 室	(03) 945-3792
ネ ッ ト ワ ー ク 係	(03) 942-6947	浜 田 研 究 室	(03) 944-7504
"	(03) 942-6948	浅 野 研 究 室	(03) 944-7574
デ ー タ ベ ー ス 課 長	(03) 942-6971	安 達 研 究 室	(03) 942-6995

学術情報センター日誌

9. 1～9.28 元年度第1回総合目録データベース実務研修開催
9. 4 韓国産業研究院 李氏他1名来訪
- 9.13 雇用促進事業団雇用職業総合研究所 為貞氏他2名来訪
- 9.14 総合目録委員会開催
- 9.21 英国科学技術研究委員会 クラーク氏他2名来訪
- 9.25～9.27 元年度第3回目録システム講習会開催
- 10.11～10.31 猪瀬所長, 海外出張(イギリス, フランス, 西ドイツ, スウェーデン)
- 10.12 科学技術庁科学技術情報課長来訪
- 10.18～11. 4 根岸教授・大山助教授・安達助教授, 海外出張(西ドイツ, イギリス, ルクセンブルク)
- 10.20 総合目録小委員会開催
- 10.22～10.28 飯田助教授・清水システム管理課課長補佐, 海外出張(アメリカ)
- 10.23～10.25 元年度第4回目録システム講習会開催
- 10.29～11. 5 山田研究開発部長・石井データベース課課長補佐, 海外出張(スウェーデン)
- 10.29～11.15 飯田助教授, 海外出張(アメリカ)
- 10.30～11. 4 内藤教授, 海外出張(韓国)
11. 2 京都大学東南アジア研究センター外国人研究員サンシー氏来訪
11. 6～11.15 浜田研究主幹・桂助手・高須助手, 海外出張(アメリカ)
- 11.10～12. 7 元年度第2回総合目録データベース実務研修開催
- 11.14 韓国ソウル大学図書館長来訪
- 11.20 課金委員会開催
- 11.20 韓国高等エネルギー研究所原子力病院金氏来訪
- 11.26～12. 3 安達助教授, 海外出張(アメリカ)
- 11.26～12. 6 根岸教授・門田目録情報課長, 海外出張(アメリカ)
12. 4～12. 6 元年度第5回目録システム講習会開催
12. 4～1.26 宮澤助教授, 海外出張(韓国)
12. 6 運営協議委員会開催
12. 7～12.16 内藤教授, 海外出張(シンガポール, マレーシア, インドネシア)
12. 9～12.15 原助手, 海外出張(シンガポール)
- 12.11 韓国国立中央図書館長他1名来訪

<目次>

学術情報ネットワークの拡張とこれに伴う

- 運用停止について 1
- 平成元年度国際接続の整備について 3
- NACSIS-MAILと国際ネットワーク
- BITNETとの電子メール交換について ... 4
- 電子メールシステムの機能強化について ... 8
- 学術雑誌総合目録と文編の改訂について ... 9
- 情報検索サービスの拡充について 12
- データベースディレクトリのデータ更新について ... 12
- 大学等の研究者等が作成するデータベース
- の学術情報センターへの受入について ... 13
- 英文データベース利用者マニュアルの作成

- について 13
- 第2回日本情報国際会議について 13
- 接続ニュース 14
- 東アジア書誌調整研究 15
- NACSIS-IRシステム・データベース
- 収納状況 16
- NACSIS-CATシステム・データベース
- 構築状況 17
- 第9回学術情報センター運営協議委員会 17
- ネットワーク委員会 18
- 総合目録委員会 18
- 課金委員会 18
- 学術情報センター電話番号 19
- 学術情報センター日誌 20